

# しが国際協力親善大使レポート

まつうら よしひろ  
松浦 義博さん

隊次：2015年度1次隊

職種：教育行政・学校運営

派遣国：ボリビア

## プロフィール

2015年3月まで、ハローワークにてキャリアカウンセラー（就職支援担当）として勤務。その後退職し協力隊に参加

## 国、地域、文化について

私が派遣されているのは南米にあるボリビアのサンタクルス県サンイグナシオ市という人口三万人位の地方の町です。ボリビアと言えば最近日本でも鏡ばりのウユニ塩湖が有名で、ほぼ日本の反対側にあるとはいえ日本人観光客が急増しています。一般的にはアンデス山脈を中心とした山のイメージが強い国ですが、国土も日本の約三倍あるため多彩な自然環境に恵まれており私が住んでいるサンイグナシオ市周辺は、高度3000M位の低地で年間の気温も常に30度前後と年中半袖でも過ごせることができます。

## 活動や生活について

私の職種は教育行政・学校運営という協力隊の中でもあまり見かけない職種です（未だに同じ職種の人に出会ったことはないです）。そして配属先は INFOCAL サンイグナシオ分校という民間の職業訓練校で、主にコンピューター関連、携帯関連、美容（エステ、ネイル）、自動車整備、ビジネス関連の訓練コースや幼児向けのパソコンや英会話教室を開催しており、受講する生徒の皆さんは、仕事を探している人だけでなく働いているお父さんや主婦の方、現役の学生の皆さん様々です。

私はそこで学校運営の補助業務をしており学校運営の補助というイメージが掴みにくいかもしれませんが、具体的には生徒集めのチラシ作成やそれを街中で配ったり、時には地元の学校に出向いて生徒の皆さんに受講してもらうように宣伝したりしています（配属先は財団法人の職業訓練校で、運営費は財団に所属している関係企業からの補助金と生徒からの受講料により賄われています）。他にも授業に参加して生徒の皆さんと交流を深めつつ授業がスムーズに進行していくように授業の準備を手伝ったりしてサポートをするのも大切な仕事の一つと言えます。今後の活動としては、できるだけ沢山の方々に受講してもらうためこれから開講される予定の訓練コースをどれだけ沢山の皆さんに知っていただくような宣伝方法を考えていくこと事と職業訓練校である以上、生徒の皆さんができるだけ訓練終了後仕事を見つけてもらうのが大切な仕事であるため今後そのためのシステム作りが課題になると考えてます。

生活については、日本でいう所の長屋のような所で一部屋借りて生活しています。大家さんも同じ建物の棟に住んでいるため何か困ったことがあると相談しやすく、又比較的電気や水道といったライフラインは、たまに断水や停電はあるものの安定しているのが現状です。ちなみにこちらの交通手段は近場であればバイクタクシー、遠方であればバスが一般的です（尚隊員は安全の観点からバイクタクシーの利用は禁止されてます）。私の住む

街にはたくさんの買い物ができるスーパー等はないため、長距離バスに乗って買い物に出かけるのが楽しみの一つではありますが、大きなスーパーのある街までは片道十時間近くかかり、道はアスファルトではなく未舗装なところが多いためよく雨が降った時はバスが泥濘にはまって脱輪してしまい帰るのに更に時間がかかってしまうこともあります。尚、鉄道もあるにはありますが、ボリビア国内の一部で開通しているだけで日本のように日本中をどこの都道府県においても線路が敷かれているという状況ではありません。

尚現地で話されているのはスペイン語です。我々隊員は派遣される前に訓練所にて集中的に語学の勉強を行いそれから派遣されるのですが、それでもペラペラに話せるかという点で甚だ疑問でどちらかと言うと周囲のボリビアの人たちに助けられているというのが実情です。語学に関しては現地で住んでいる間常に勉強が大切になると考えています。こちらに来てまだ半年足らずですが、こうした状況にて活動に励んでいます。



街並み



コンピューター教室



宣伝



配属先での写真



バス